

## 「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

### 【対象者別】社会人・経営者【概要】

令和2年12月16日（水）

19時00分～20時00分

場所：女性総合センター

## 1 開会の挨拶

### （市長）

市長の清水でございます。今日は、また皆さんのお気持ちを寄せていただき、ご意見をお伺いするというので、夜分でございますけれども、皆様方にお集まりをいただきました。大変ありがとうございます。

私は昨年8月、4期目の市長としての選挙に勝たせていただきまして、昨年の9月から4期目の市長ということでスタートをさせていただいております。昨年の選挙のときに市民の皆さんに分かりやすくと思って、私の将来像を文章にしたものを掲げて選挙を戦わせていただきました。「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」こういう標語でございます。

これをよくよく聞いて、あるいは分析してみますと、非常に矛盾した言い方ですよ。ね。「にぎわい」と「やすらぎ」が同居できるのかと言われれば、もうちょっと無理ですよ。ね。「交流都市」も入ったら、ぐちゃぐちゃのまちになってしまう。こんなことを実は最初に気づいたのは、私の息子でした。お父さん、こんな格好悪いことをやっちゃっていいのかって。実は私は、承知をしながら、それを書きました。なぜかと言いますと、私自身が立川の市長をしていながら、一言で表せる言葉がどうしても見つからなかったのです。ですから、立川市の特徴を拾い上げて、「にぎわい」と「やすらぎ」、そして「交流」という言葉で表現しました。このフレーズを分析しながら聞いておりますと、立川の特徴をよく表していると思っております。

まず「にぎわい」に関しましては、皆さんご存じのとおり、東京都内でも有数の大勢の来街者がいらっしゃいます。それから「やすらぎ」に関しましては、例えば多摩川の河川敷などの静けさ。静けさの中で多摩川が粛々と流れていく様や、昭和記念公園の森の静寂には、やすらぎという言葉が似つかわしく思っております。それから「交流都市」。人々が交流するだけでなく、例えば立川駅の電車で申しますと、中央線、南武線、青梅線など、多くの路線が乗り入れしている駅となっています。よくこれで統一が取れているなど思うぐらい、私は立川市が特徴のあるまちだと思っています。

特徴があるという意味からは、立川市は戦前軍都でした。日本陸軍が立川に駐屯して、そして第二次世界大戦に敗戦した直後からは米軍がそこに駐留して、航空基地を作りました。そして現在は、民間の方々から基地跡地を開発していただきました。本当に大きなショッピングセンターから、小さな洋服屋さんとか、あるいは食品屋さん、レストラン、いろんな業種の方々が出店し、三多摩中の大勢の方に訪れていただいて、立川市の認知度が向上しました。

そんな中で色々な皆さんから色々な価値のあるお話を聞いて行政を前に進めていくということが、私の役目であるといつも思っているところでございます。そんな中から、今日

は限られた時間でございますけれども、皆さん方から一つでも多くのアイデアを頂戴する中で、それを発揮しながら、今後の立川のまちづくりのために役立てていきたいと考えておりますので、ぜひたくさんアイデアをお聞かせいただければありがたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 意見交換

### (参加者)

柴崎町に住んでいる者です。

南口の商店街の会長をやり、まちづくり会社の役員等もやらせていただいております。現在新型コロナウイルス感染症のことで、本当に駅周辺の商店街、大変疲弊をしております。商店街の会員等も本当に大変なことになっているような状況でございます。緊急事態宣言を受け、立川市にはいろいろなご支援をいただき、本当にありがとうございます。まだまだ商店街の各お店も大変厳しい状況も続いておりますので、今回の中小事業者事業継続緊急支援事業ですとか、また地域経済活性化事業ですとか、あと商店街への支援事業、本当に大変助かっております。このような事業に関して、一応支給受付期間等があるかとは思いますが、まだまだコロナ収まっておりませんし、今日もまた大変たくさんの方が感染されているという状況で、お店を利用しようという方が本当に今ちょっと怖くて行けないねとか、そんなようなこともございます。ですから、この年末年始を受けて、どのような状況になるのか、年明け本当に心配をしております。ぜひまた引き続きご支援のほどをお願いしたいと思っております。

今年の地域経済活性化キャンペーン事業で、キャッシュレス事業が始まっているのですが、これは非接触型ということで、今後どんどん取り組んでいかなければいけないのかなと思っております。商店街の中の、比較的高齢の店主の皆さんはキャッシュレス事業に対して、まだまだ不慣れというか、拒否反応を示される方が多いことが予想されます。そういった中でも、何とか説得をして参加をしていただいて、立川市全体でキャッシュレス事業に取り組みたいと考えております。また来年はきっと大型の経済対策なども出てくるかと思っております。その際にはぜひ大型店さんだとか、まちぐるみでいろんな事業にぜひお願いをしたいと考えております。

### (市長)

夕べも、防犯パトロールで立川駅南口周辺にお邪魔させていただきました。今おっしゃられた通り、飲食店がガラガラなのです。私がパトロールにお伺いしたのが夜の7時半から8時ちょっと過ぎぐらいなのですが、その時間帯であの閑散具合ですから、もう少し早い時間帯は来客数も厳しい状況だっただろうという印象を持ちました。

そうした中で、立川駅南口周辺で喫煙所を設置して、より皆様が集まりやすい環境を作ろうという計画が進んでおります。夕べも、所定の場所以外で喫煙されている方を何度か拝見いたしました。何とか来年の3月までにはそういう場所でなくて、堂々とたばこを吸えるような施設を、南北に1か所ずつ作りたいと思っております。大したお手伝いでもありませんけれども、一人でも多くお客さんにお越しいただけるような方策をとるつもりでおります。

そのほかにつきましても、商店街の関係でございますから、お申し出いただければ、相談に乗らせていただいて、いろんな対策を講じていかなければいけないなど、私自身も思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### (参加者)

柴崎町に住んでいるものでございます、よろしくお願いいたします。

立川市さんと一緒に商店街活動をやらせていただいています、商店街のほうにいろいろご協力いただきまして大変ありがとうございます。私は駅前のいろは通り商店街というところを扱わせていただいております。グランデュオさんの前のところになるのですけれども、本年、もともと一方通行だった道が双方向に変更になりました。それに伴い、立川バス等の路線バスも走っていただくようになりまして、活性化という意味ではよくなっていると感じます。ですが、そこはもともと渋滞や、違法駐車などが多かった道です。現在もバスの運転手さんがすごいテクニックを使ってその道を通り抜けているような状況です。その辺の対策なども立川市さんとしても、今後どういうふうに見ていただけるのかなというのが1点です。

それに伴いまして、逆に、もともとバス路線がすずらん通りのほうを通っていたのが、右折して江戸街道のほうに出ていたり、従来と比較して交通量がかなり変化してきているのかなと思っています。逆にすずらん通りさんですか、うちのほうは、前の道路を直すときに、歩道を拡張していただきました。双方向、南北でちょうど1メートルぐらい出しているのですが、すずらん通りさんですか、あとは今度逆に、駅出て右のほうに、諏訪通りのほうに向かっているところが、逆に2車線なのですが、あそこも歩道が少し狭いのかなという感じを受けております。区画整理の40年、50年前のときには、道路社会ということだったとは思いますが、今はどちらかというと人が中心のまちづくりをするという方針だと思しますので、先ほどお話しした歩道と、すずらん通り、あるいは諏訪通りの歩道等の拡張等に関して、もしお考えがございましたら、ちょっとお聞かせいただければと思います。以上です、よろしくお願いいたします。

#### (市長)

南口については、区画整理を多摩地区の都市の中で最初に試みた都市であるということは、私も先輩から聞いております。しかし、区画整理のための工事が全て終わった段階で、もう既に50年近くが経過しており、時代遅れの狭い歩道などを据え付けたまちづくりになってしまったという専門家からのご意見も伺っております。あれだけ古いまちでありながら、きちんと道路が十字路になっていて、バスなども本来なら、もっとスムーズに通れるはずであるというお話を仰っていただきました。

例えば、バス停を駅に着けないで、駅から100メートルぐらい離してバスセンターを作ったりすることが地域の皆さんにご賛同いただけるかどうか。しかもこれからは、道路よりも歩道のほうを更に重要視する時代になっていくだろうという流れになっております。そういう中で、今後立川市としてどう対応していくかということにつきましては、今私がお場で、大して勉強もせずに申し上げるのは大変失礼かと思っております。大変申し訳ありませんが、まだ私の立場では提案をするようなところには至っておりません。いずれにしても、地元の人たちの価値観をどう一つにまとめていけるかが鍵になっているなど

思います。いろんなアイデアがありますよね。例えば南口の駅棟から100メートル以内はバスも車も全部入れさせないと。乗り入れ車両を全部シャットアウトすれば、本当に楽しい駅前商店街になるのではないかと私は思ったりするのですけれども、これから先、私の口から言及するのはご勘弁いただきたいと思います。よろしくお願いします。

**(参加者)**

南口商店街連合会の者でございます。

まず58街区、これについては順調に進んでいるようですね。南口のモノレール下のベンチ設置、これについても今日から工事が始まりまして、19日にとりあえずは、最初5基だけですが、設置完了するという見込みになりました。どうもありがとうございます。

今、まちの景観について少し質問が出たと思うのですが、私のほうからもちょっと景観関係でお話があります。確か4年前、平成28年の7月ですから4年前に、南口と北口のペDESTリアンデッキと言いますか、あそこの水漏れと、中に鳩が住みついてしまうという問題です。今工事をやっている最中だと思います。僕の記憶では確か北口を先にやって、1年後の平成29年かな。29年の夏ぐらいから南口を始めるというような計画だったと思います。実際始められているのですけれども、なかなか先に進んでいないように見えるのですね。ちょっとやっぱり駅前の景観としては少し見栄えが悪いのかな。それこそベンチができて、何となく上を向いたら、空じゃなくて工事の風景が見えてしまうというのは、あんまりよろしくないのかなと思うのです。ですので、現状の進捗状況ですとか、大体完了予定というのがいつぐらいであるのかというのが、ざっくりで構いませんのでお知らせ願えればと思います。以上です。

**(総合政策部長)**

工事について、いろいろ業者との契約関係等で、なかなか思いどおりには進んでいないというようなことは聞いております。具体的にこれから先、デッキの最後の所に58街区がありますので、それぐらいに合わせた中で改修を進めていくのかどうかということで、私のほうでも今ははっきりこの時期までに必ず改修が終わるということは申し上げられません。明日また、私担当の課のほうに確認をした後に、ご連絡をいたします。それでよろしいでしょうか。申し訳ございません。

**(参加者)**

こんばんは。私は立川に来てから、30年近くなります。転勤族で立川に来て、入ってきたときにとっても嬉しかった。なぜか知らないけど、とっても嬉しかったです。それで、転勤があったものですから、最後どこに行くか全然分からない状況で立川入ってきたこと、今でもものすごくよかったと、ありがたいと思っています。

それで、ちょうどこの12月1日で立川市も傘寿(80周年)を迎えたのですね。私もその年になりました。私はとにかく立川によくなってほしいという思いだけなのですよね。私はちょっと対立的な性格があるから、対立感を受け取られたかもしれないと思って心配してしまうのですけれども。

そういうことは決してなくて、どうしたら当たり前の市の行政や議会、市民が、どういうふうにして友愛・和合していったらいいのだろうということをずっと考えてきていて、

それが分からないから市の財政に関わることについての活動をここにいらっしゃる方とか、いろんな方が集まってやっております。その中でちょっと気づいたこと、これから清水市長も、立川市民であり、立川市職員や市議会議員を経験して市長になられた稀有な経歴であります。そういう人ってあんまりいないと思います。そういう方だから、今回のコロナ禍での国や都道府県の施策が、いかに的を外れているかということが明らかにされてきているところがあるように思うのです。当たり前のことを発信していくのは、まずは市町村からだと。できれば立川市がその先鞭を切って、全国に良い例を広げていくという意味で、頑張っていていただきたいなと思っております。そして協力させていただきたいと思っております。

ただ、ちょっとだけご意見を申し上げますと、やはり市民の声を行政に生かすということがなかなか難しい。いろんな事情があると思いますが、公益ということとか、そういうことを考えながら、市民の声とか経験を行政に生かしていくということが必要であると考えます。それから、行政の側から市民の側に寄り添っていただくということ。立川市の職員の方は、付き合ってみると分かるのですが、非常に優秀な方ばかりです。だけど、清水市長、悪いけど清水市長の掲げるコンプライアンスを過度に考えすぎてしまっていることが、彼らの意欲とか力をものすごく減殺してしまっているのではないかなと思います。コンプライアンスという横文字は、僕大嫌いなんですよ。攻めているのではないですよ。だからね、そういうような、職員の方が自由に社会の問題を一緒に考えていく。いろんな意見があるけれども、全部聞いて、持続可能性というか、次の世代に良い形で継承するということを物差しにして、じゃあこういうふうにしようよということを決めていくような姿勢をぜひお願いしたい。

長期総合計画のお話がありましたけれども、そういうことも含めて、数少ない市民の意見しか取り入れられなかったら、業者などに依頼して、何回も何回も計画書を作っていかなきゃいけないというようなことにならざるをえないと思います。だからもっと市民の側に積極的に投げかけていただいて、市民からは様々な意見が出るとは思いますが、最後はさっき言った基準できちっと切っていくような市政をやっていくと、全国的に市町村の方、とっても喜ばれるのではないかと思います。そういう先鞭を、稀有な体験をお持ちの清水市長にぜひお願いしたいし、私もとにかく立川のためにできることを何でもさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

### (市長)

お褒めの言葉と叱責の言葉と五分五分ですから、どちらか分かりませんが、何でもかんでも、横文字で表現されて、私もよく意味を調べたりするような場面があります。でも、はっきり申し上げて、私は他の都市の首長さん方に比べて、市民の要望を政策の中にかなり組み込んでいると思っています。

例えば、今年立川市政生誕80周年記念の年でありました。しかし、記念の行事を私は一切やりませんでした。小規模とはいえ、記念の行事をやると、すぐ1億や2億かかってしまいます。ですから、そのお金を市民の要望するところに使っていきたいということで、敢えてやりませんでした。70周年のときにはやりましたが、これはなぜかという、ちょうど70周年の年が旧庁舎から新庁舎へ移転する年と重なった年なのです。ちょうど70周年記念に新しい庁舎へ引っ越ししましたということでその時は行事を行いました、80周年の

今回は意図的に行事を行っておりません。立川市の概要をまとめた市勢要覧というものを発行するに留めました。

そのようなかたちで、基本的に私は物事を判断する上で、いかに市民の要望をくみ取るかということをお大切にしています。今後も、そのような方向でやらせていただきたいなと思っております。それでも100人100様の意見を集めて、それを一つにするのには、すごい時間とエネルギーが必要となります。ですから、場合によってはすぐにスタートしてしまうこともあります。例えば私どもの行政の財源は、市民の税金に加えて東京都からの補助金、あるいは国からの補助金、稀には民間の方からの寄付金などもあります。そういうお金でいろんな事業を行っているのです。ですからできるだけ角が立たないような形で気を遣いながら、前に進んでやらせてもらっているところでございます。貴重なご意見いただきました。ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

#### (参加者)

くれぐれも職員の方の、本当自由な発想と力を発揮できるような形に。あんまり締め過ぎないようにお願いします。

#### (参加者)

錦町の会社に勤めている者です。よろしくお願いいたします。

市長からの冒頭お話のあった、「にぎわいとやすらぎの交流都市」という言葉、すみません、実は初めてお聞きしました。素直に感銘をいたしました。改めて考えると、特異なまちなのだなということは感じまして、私も先ほどございましたけれども転勤族です。実はコンプライアンスに日々縛られているサラリーマンでございます。実は20年前、この立川で仕事をしておりまして、この4月に20年ぶりにまた戻ってきました。当時と違って、率直に感じたのは、北口、立川駅前がここまで変わったかというのが第一印象でございました。北口の再開発もしかり、ただ風情は変わってないというのは、改めて今現在進行形で感じているところでございます。ぜひなっしてほしいなというまちの姿は、立川に住みたいとか、子育てしたい、立川で就職したいという人が増えるようなまちづくりをぜひお願いしたいなと感じているところでございます。

今日お聞きしたいことはいっぱいあったのですが、一つだけお話を致しますと、脱炭素という話題に対して非常に興味を感じております。先般総理大臣が50年に実質排出ゼロという目標を掲げました。さらには東京都が30年に脱ガソリン車100%という目標を掲げた。これは素晴らしいことだなと個人的には思っております。いわゆる企業人として、一般市民として、省エネとか創エネとか、目の前のことでいくと、公共交通機関を使おうということ子どもに言っていたり、コンビニ行ったらエコバック使おうという取り組みを、一応日々心掛けております。その中で、市長のお考えになる脱炭素社会といいますか、恐らくそれが今後のまちづくりのキーワードになっていくのだろうなど、漠然と感じておりますので、今描いている立川市の未来像というか、こんなふうにしていきたいなというような方針などがございましたら、お聞かせ願いたいなと思っております。以上でございます。

#### (市長)

個別のことはたくさんありますけれども、CO<sub>2</sub>の抑制に関しましては、一番象徴的なもの

がごみ処理だと思えます。ごみを集めて、全て燃やしてCO<sub>2</sub>を排出するのは上手いことではないということで、燃やせるゴミの減量化を市民に恨まれるぐらい厳しくやらせていただいております。燃えるごみを入れる黄色の袋を有料化して、それ以外の袋では受け付けないということでやっております。可燃と不燃以外の再利用できるごみは、普通の透明のビニール袋とか使い捨てになるようなものを使用可として、無料で収集しております。そんなことで、いわゆる脱炭素に関しては、そのような体制をとっているところでございます。

大きな視野でものを言ったまちづくりの根底というお話でありますけれども、これに関しましては、命が一番大事。健康が一番大事。いつも私はそれを申し上げております。若い職員の前でも、一番大切なものは何だ、命だろう、それを最優先にものを考えて行動をしてほしいということをよく言っております。私の哲学はそこら辺にあると思っております。

#### (参加者)

今回はこのようなお時間をいただき、どうもありがとうございます。曙町で事業を営んでいる者です。昨今自然災害の増加だとか、あとはコロナ、あとは各種法律が変わって働き方改革だとか、一歩先がもう不透明な状況になっているというところで、私ども立川で事業を営んでいる者も、今までは自社の利益をどうやって出していくかということを考えていましたけれども、中長期的に地域を発展していくためには、もう自社の利益だけを追求してはもうやっていけないと。これは、私ども民間企業も、行政の皆様も、その他も皆一緒だと思っております。そういう中では、やはり先ほどもお話がありましたが、立川を良いまちにするため、経済、産業、あとは市民の皆様が暮らしやすいまちにいくために、立川市のポテンシャルを考えると、立川市は全国を代表する行政さんだと思っております。そういう中では、やはり行政だとか民間だとか個人だとか、そういう枠を超えて、官民連携含めて、連携して、それぞれの強みを生かして地域の発展に貢献していく。皆がそういう思想を持ってやっていくべきだと思っております。

私ども民間事業から見ますと、やはり行政の皆様のやっていることは、正直なかなかなかよく分からない。逆に行政の皆様から見ると、民間の私どもが何を求めて何をやっているかよく分からない。そういった中で、この日本社会全体で求める目的だとか方向性というのは、どこも多分一緒だと考えます。できたら、私ども事業の発展とかそういうことではなく、立川市が全国を代表するような、素晴らしく発展していく市になるために、立川市民の皆様、もしくは先ほど商店街の皆様の話もありましたけど、そういう課題を吸い上げて、私ども民間事業者も含めて、お互いに意見交換や議論をするような場というものを、是非とも定期的でもトライアルでやってみるだとか、行政の皆様のよい思想発想、民間のよい思想発想を、いわゆるベストミックスして何か新しいアイデア・取り組みができるじゃないかと思っております。当然その官民連携という言葉は非常に聞こえのいいものですが、逆を言いますと官民癒着というような見方が行政の皆様のほうからあるのもよく分かります。ですが、そのようなことを考慮した上でも、お互いの立場が違えば、アイデア、発想など、色々なものが出てくるかと思っておりますので、ぜひともそういったものをトライアルでもやってみて、全国で立川がそんなことをしていると。そこからこういったものが生まれてきたみたいなのをご検討いただけたらありがたいと思っております。以上です。

(市長)

はい、ありがとうございます。実は協働に関する取り組みにつきましては、いろんな試みをやっているところでございます。ただ民間企業との協働を行う中で、一番の障害となるのが利益の問題ですね。やはり議会でも、民間会社と協働する場合には、一番に利益の問題の話が出てきますね。ですから、なかなか私ども、急にこういうのはいかがですかという提案をいただいても、それがたとえ良い提案であったとしても、すぐにその話に乗るという訳にはなかなかいきません。しばらく時間をかけて、どういう考え方、どういう意識を持っているのかという点をしっかり時間をかけて精査させていただかないと、連携は難しいなと思っております。

これまでは民間企業のみなさまからは、自社の利益を見据えた上で連携の話をしていただくことが多かったです。でも最近では自社の利益優先ではない考え方の企業が少しずつ出てきたという話を聞いておりますので、これは放っておく手はないなという気持ちは持っております。いずれどこかで、何かの形が表に出てくるのではないかなと思います。

### 3 閉会の挨拶

(市長)

どうも皆さん、ご協力大変ありがとうございました。短い時間の中で、大変中身の濃い議論をさせていただいたのではないかなと思っております。本当にありがたい気持ちでいっぱいでございます。

高齢化社会、これはもう止めることはできません。ということは、行政ももつともつと、今の予算よりも少ない予算で、今の市民サービスが維持できるような体制を作っていかなないと、大変なことになると思っております。ここら辺が私ども行政に課せられた一番大きなキーワードではないかなと思っております。また今後もこのような形で、皆さん方にご意見を頂戴する機会も出てくるだろうと思っております。そのときはまたぜひご参加いただいて、ご意見を頂戴できればありがたいと思っております。本日はどうも大変ありがとうございました。